

# 2011特別見学ツアー一報告書

## [市場寺本堂]



「国宝 阿弥陀如来 四天王 市場寺」とある



ここで言う国宝とは現在の重要文化財

正面遠方に市場寺本堂が見えてくる





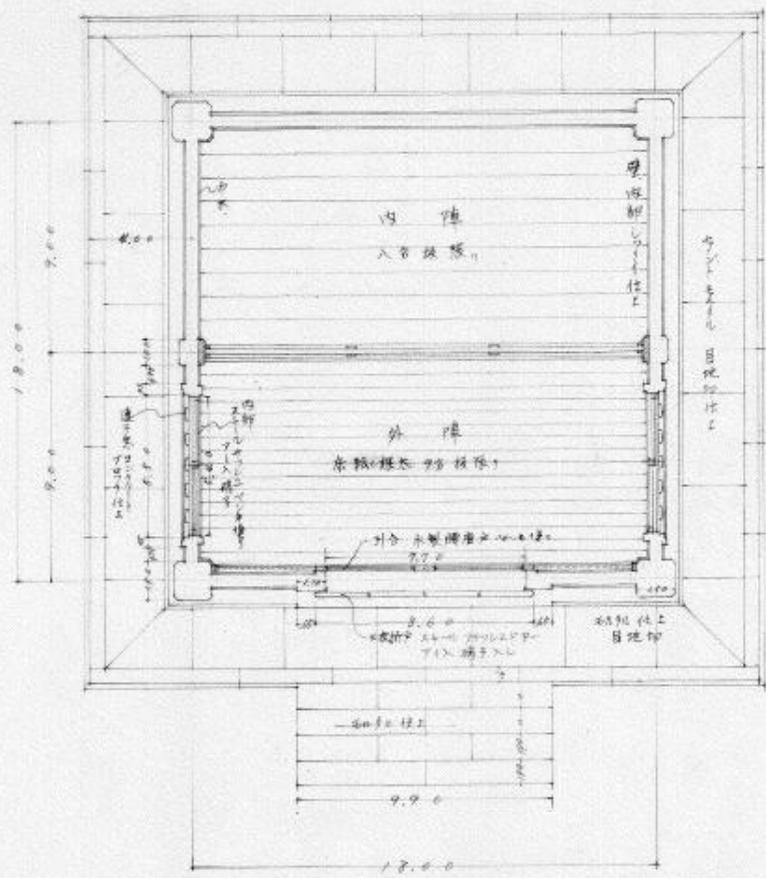










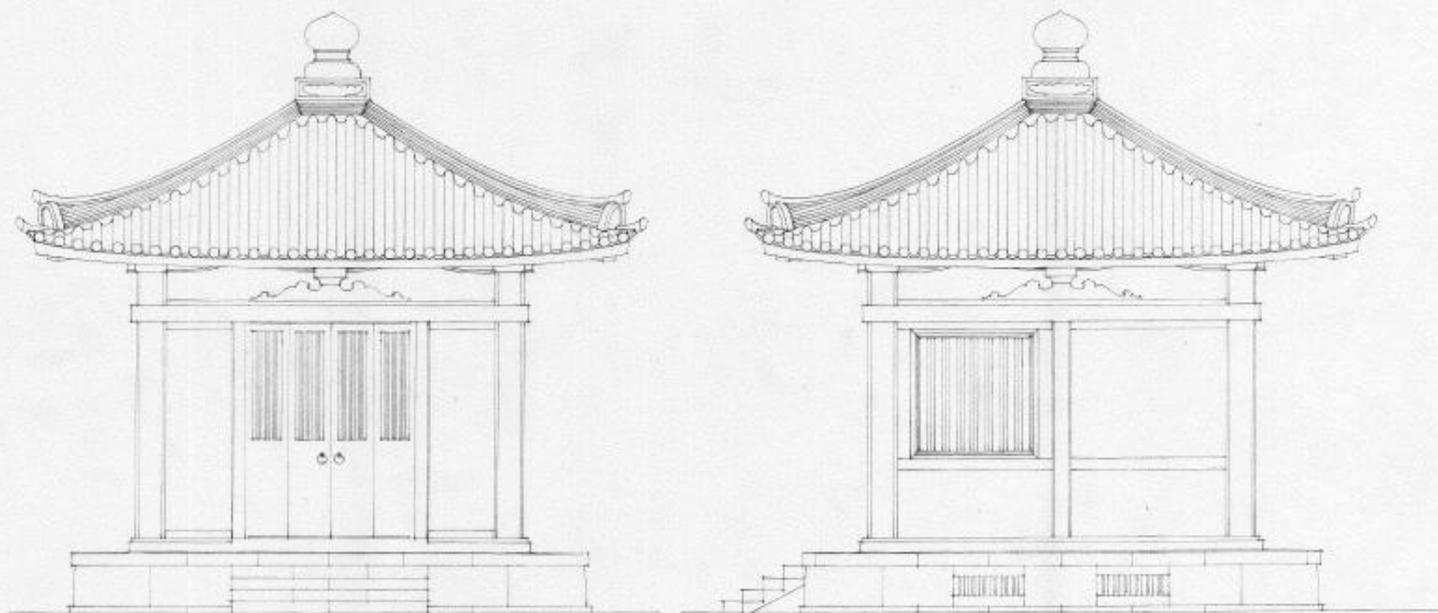


仕 上 表

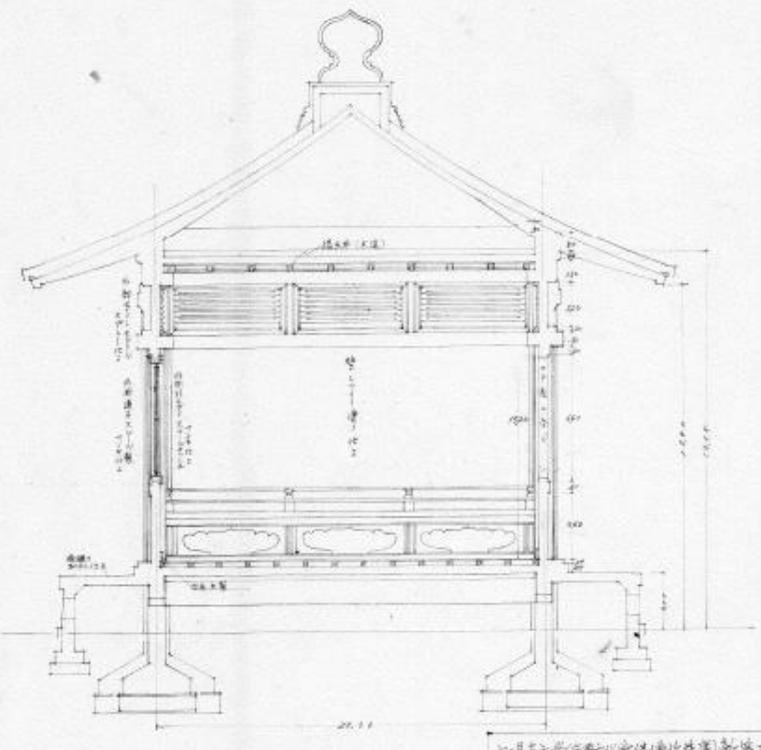
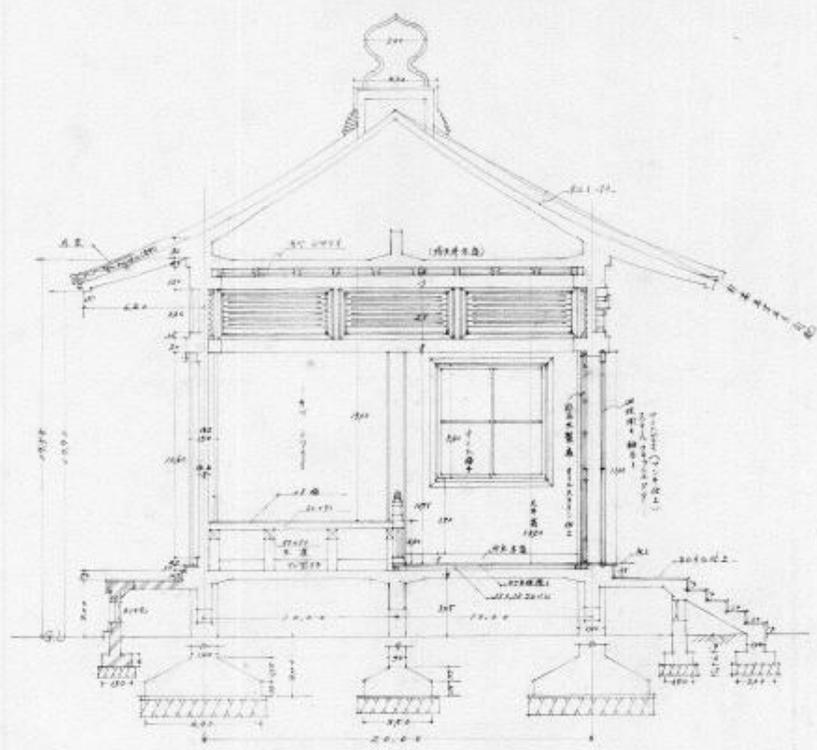
部 位	仕 上 材 質
基 礎	鉄筋コンクリート
軸 部	付帯部は 耐火コンクリート
外 壁	〃 〃
内 壁	シタ工法 中木木製
天 井	木製大井組 単面コンクリート
基 礎	石瓦葺 露合瓦敷 塗料着色
断 面	耐火付工 耐火コンクリート
床 面	既設コンクリート一部入合瓦葺
段 階	既設 目地付
建 具	スチール 耐火 一部木製 耐火付工

市場亭(重慶文化街)修復工事 新築工事			
図面名称	平 面 図		
図面番号	1	縮尺	1/50
日 日	2011.11.20	設計	大 岡





承德避暑山庄(普陀宗乘之庙)新建工程			
四合院	正西面	侧西面	四
四合院	之	雅文	/50
月	11	设计	大 园



市場亭本堂(舊堂文化館)新築工程  
 剖面圖 橫剖面 縱剖面  
 圖號 3 縮尺 1/50  
 日 2007.12.25 設計 大國























ここに住吉神社があったようだ





伊賀四日市  
奉納  
南無大師遍照  
施主









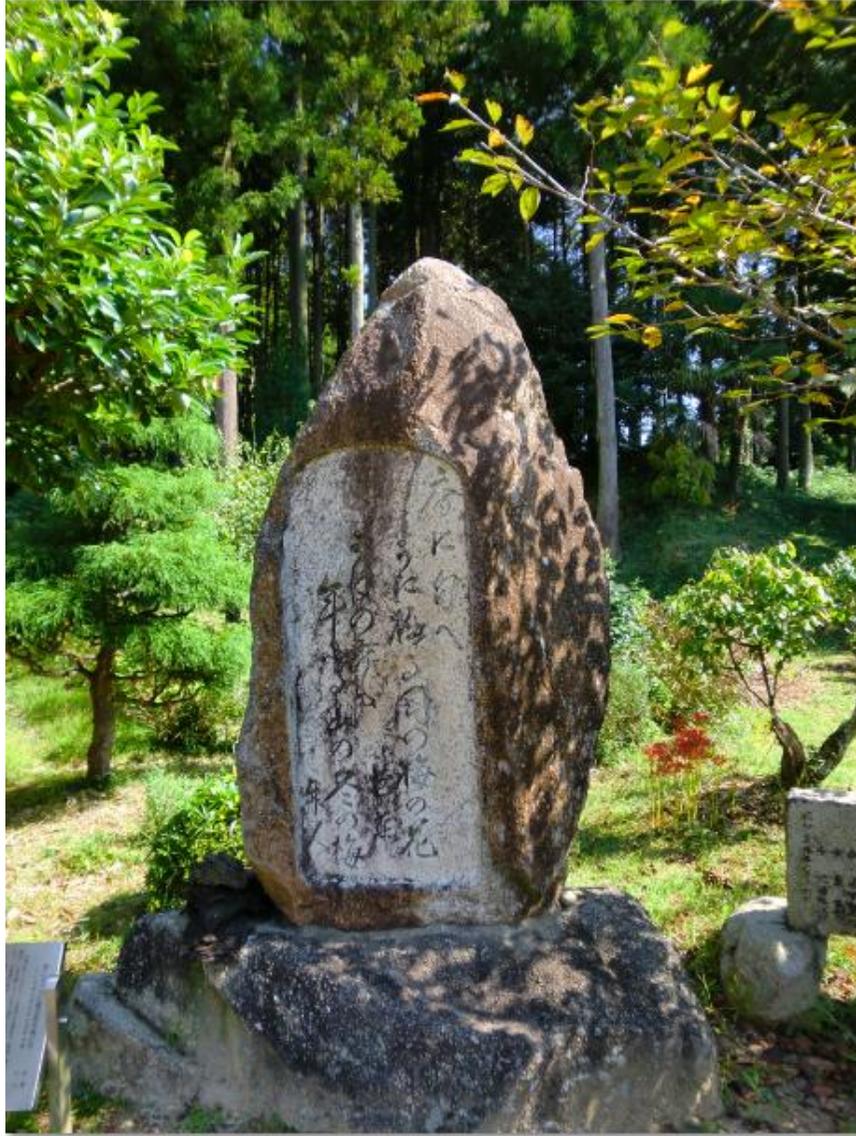








松尾芭蕉の句碑





「俳聖芭蕉翁碑建立」とある





## 香かに匂にほへううに掘る岡の梅の花

ううににの香も年ふる山の冬の梅

芭蕉  
竹人

元禄元年（一六八八）芭蕉四十五歳の作。季語「梅の花」で春。『有磯海』（浪化編）に「伊賀の城下にううにと云いものあり。わるくさき香なり」の前書がある。「ううに（雲丹）」は、伊賀地方の方言で泥炭のこと。伊賀は古琵琶湖層群と呼ばれる地質で、「ううに」の埋蔵地帯。土芳稿『芭蕉翁全伝』に「此句ハ土芳庵ニテノ吟也」と注記することから、帰郷中の芭蕉が土芳の蓑虫庵を訪ねた折、上野の南郊で掘られる「ううに」の話題に及び、この珍しい「ううに」が「悪臭き香」をしているので、梅の花の良い香で消してくれ、と興じた句。悪臭と清香の対照に俳諧性がある。句意は、「早春の故郷では梅が咲き匂い始めた。岡から掘り出すううには悪臭がするから、梅の花よ、清香で和らげてほしいものだ。」竹人は伊賀城代家老藤堂采女家の家臣。本名、川口維言（一六九三—一七六四）。『三国地志』や芭蕉の伝記『蕉翁全伝』などの編纂事業に功績を残した史学者。俳諧は土芳門。宝暦年間（一七五一—一六三）に当地の庄屋中村家に立ち寄った際、芭蕉の句に自らの感慨を詠んだもの。季語「冬の梅」。句意は、「この辺りには梅の古木もあり、芭蕉の時代より相当年数が経過しているが、やはりううにの香が鼻をつく。」

国指定重要文化財 彫刻

### 木造阿弥陀如来坐像 木造四天王立像

阿弥陀如来は当寺の本尊で奇木造の定朝様の弥陀の定印を結ぶ坐像である。制作当時の漆箔が全面に残る平安時代後期の秀作である。光背文の台座は天正十一年(一五六八)の作である。本尊とよく調和している像高一五七センチメートル。四天王像は阿弥陀如来を守護し、四方に立つ。広目天、增長天、及闍天、持国天の四像で、本尊と同じく平安時代後期の作である。部分的には今も美しい款全文様や彩色が残り、造像時のすばらしさを偲ばせる一木造の立像である。像高一六〇一六センチメートル。

(大正四年八月十一日)

伊賀市教育委員会

御本尊 阿弥陀如来 御真言  
おんあみりたていせいからうん

国指定重要文化財・彫刻

# 木造阿弥陀如来坐像

## 木造四天王立像

阿弥陀如来は当寺の本尊で寄木造の定朝様（じやうていよう）の弥陀の定印と結ぶ坐像である。制作当時の漆（しつ）落（はく）が全面に残る。平安時代後期の秀作である。光背及び台座は天正五年（一五八五）の作であるが、本尊とよく調和している。像高一三八センチメートル。四天王像は、阿弥陀如来を守護して四方に立つ、広目天、增長天、多聞天、持国天の四像で、本尊と同じく平安時代後期の作である。部分的には今も美しい、戴（たい）全文（ぶぶん）様や彩色が残り、造像時のすばうしきが偲（しの）ばれる一木造の立像である。像高一六四一六六センチメートル。

（大正四年八月十日）

伊賀市教育委員会

さまざまな石造供養塔があった



五輪塔



宝篋印塔(惜しくも上部が破損しているようである)







こちらにもたくさん石造物があった







石造物の後ろに本堂が見える



こちらにも盛り沢山の石造物が集められていた











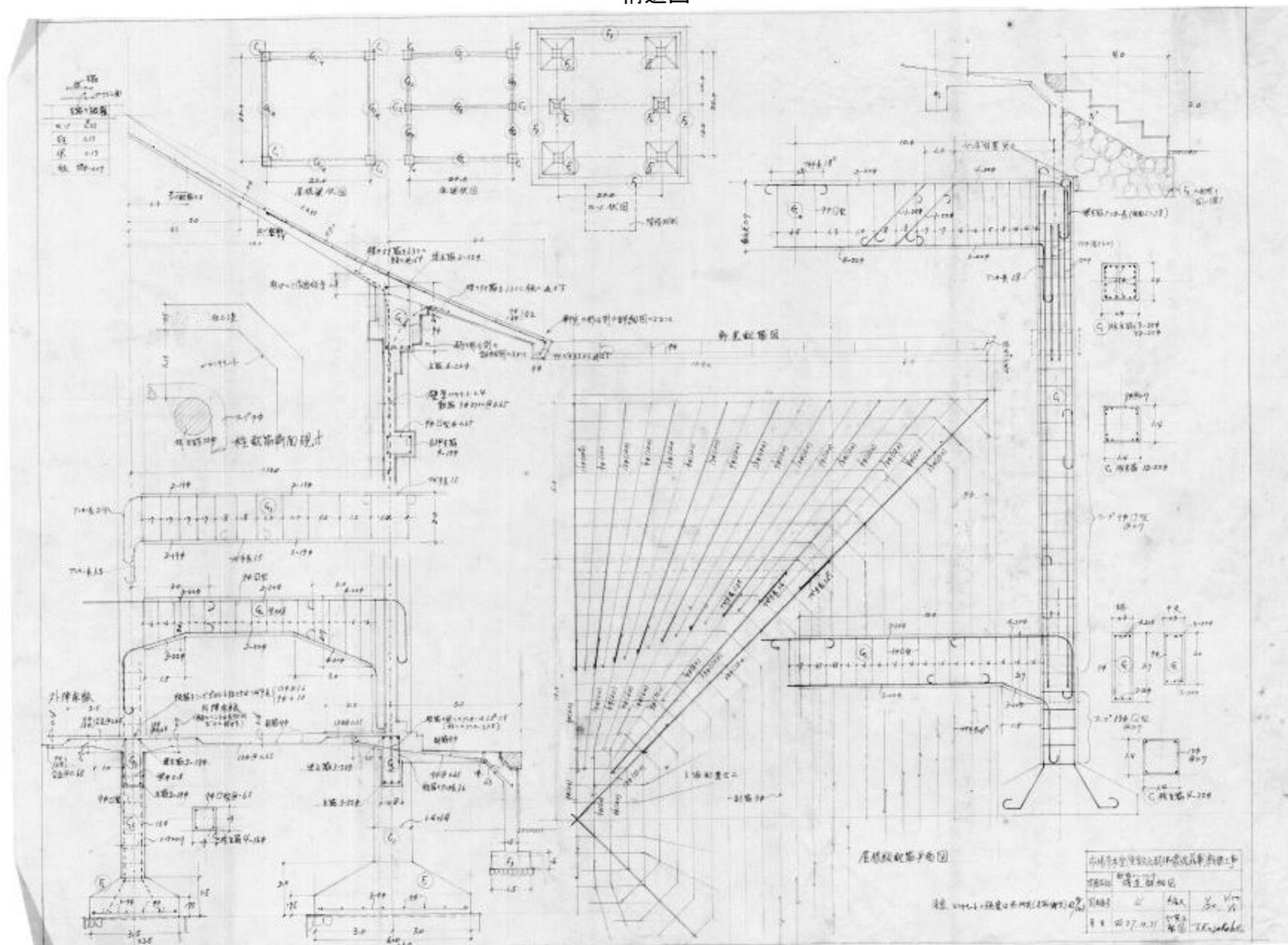
奉納  
南無大師遍照  
施主

調査隊は更に行く



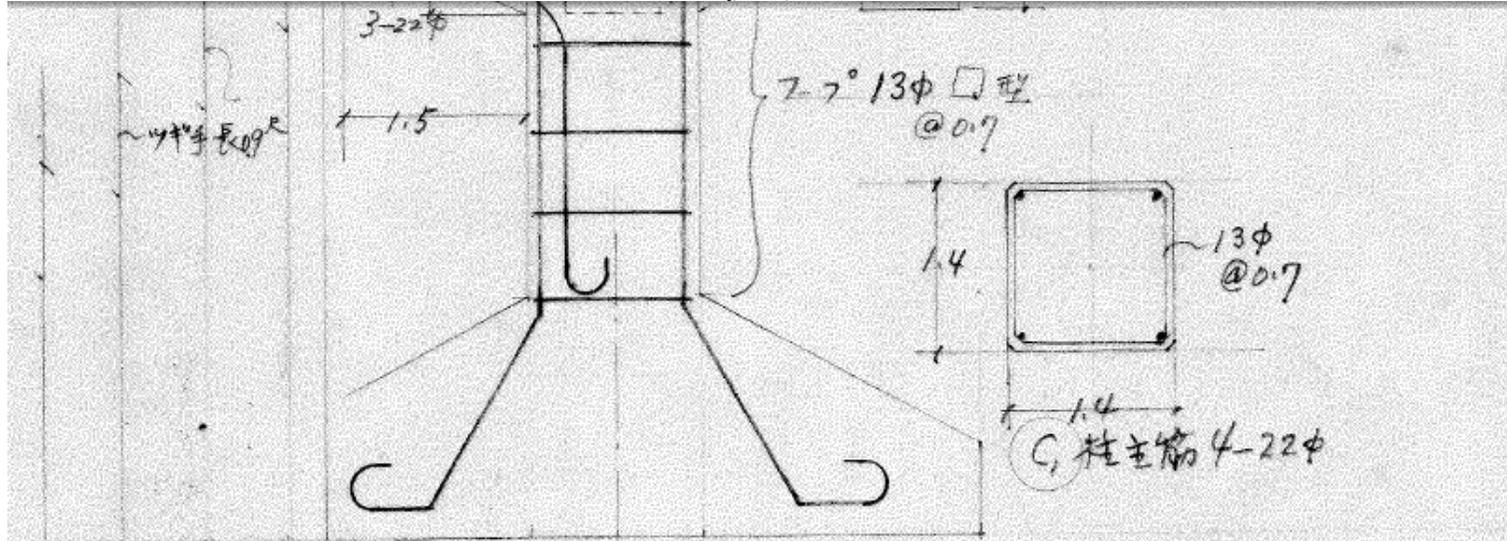
参考

构造图



设计人: 王...  
审核人: 李...  
日期: 2017.11.11

拡大図



D) 図

市場寺本堂(重要文化財佛像収蔵庫)新築工事

鉄筋コンクリート  
構造詳細図

注意 コンクリートの強度は各所共(全筋脚共) 45  $\frac{kg}{cm^2}$

図面番号	4	縮尺	$\frac{1}{20}, \frac{1}{100}$
月日	昭 27. 10. 31	計画又 製図	T. Kusakabe.

「T. Kusakabe」とサインがあるがこの方は日下部東一郎氏ではなかろうか

浅草寺本堂の工事関係者リスト

(III) 工事関係者(敬称を略す)

- |   |                      |           |
|---|----------------------|-----------|
| 1. 設計   | 工学博士 大 岡 実           |           |
|   | 工学博士 故小 野 薫          |           |
| 2. 監理   |                      |           |
|   | (第一期工事)主任技師 日下部 東一郎  | ← 日下部東一郎氏 |
|   | 監督技師 故田 島 美穂         |           |
|   | (第二期工事以降)主任技師 小 林 謙一 |           |
|   | 監督技師 佐々木 嘉平          |           |
|   | 同 清 水 寿              |           |
|   | 同 奥 田 正員             |           |
|   | 同(塗装工事担当) 稲田 光太郎     |           |
| 3. 天井画執筆  | 川 端 竜子               |           |
|   | 日本芸術院会員 堂 本 印象       |           |
| 4. 彫刻原型作製   | 齋 藤 高德               |           |
|   | 末 田 竜介               |           |
|   | 屋 間 弘                |           |
| 5. なお本工事に関し、技術的の面で下記の方々の御指導を賜った。記して感謝の意を表する次第である。 |                      |           |

年月	西暦	工事名	所在地	工事期間	助手	構造設計	施工	構造種別
昭和27.10	1952	市場寺 本堂	三重県 伊賀上野市	昭和27.10～28.04	松浦弘二	小野薫・佐治泰次	清水建設	RC造

### 市場寺(いちばじ)

真言宗豊山派、安養山。縁起詳細不明。古くは住吉神社の別当寺であり、鎌倉期に同地にあった長福寺の廃寺により、仏像が移されたと伝わる。本尊の阿弥陀如来座像と、一木造の四天王立像(保安庫に安置)は、国指定重要文化財となっている。また、松尾芭蕉の句碑も残っている。現在は無住(勝因寺管理)。

- ★所在地: 三重県上野市菖蒲池1471-3
- ★交通: 上野市駅からバス・菖蒲池下車
- ★連絡先: 0595-21-3559(勝因寺)

インターネットより

ここにあるように、この本堂は現在無住であり、重要文化財等の収蔵庫と化している

